

中東問題を観る眼

朝日カルチャーセンター・新宿教室

若林 啓史

講座の全体像

- 第1回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その1：ゾロアスター教
- 第2回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その2：ユダヤ教
- 第3回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その3：東方キリスト教
- 第4回 イスラームは偏狭な宗教？ 寛容な宗教？ 中東の多数宗教・イスラーム
- 第5回 中東は部族社会？ 中東の社会構造 その1
- 第6回 中東は宗派で分断されている？ 中東の社会構造 その2
- 第7回 中東は男尊女卑？ 中東とジェンダー
- 第8回 中東の国々はどこも産油国？ 石油問題と中東観のかたより
- 第9回 中東に民主主義は根付くのか？ 中東民衆の政治参加
- 第10回 イスラエルと湾岸アラブ諸国は手を結ぶのか？ 中東の新たな対立構造
- 第11回 日本外交における中東の重みは？ 中東外交の黄昏
- 第12回 なぜ日本の中東論文は英語で書かれるのか？ 戦後日本の中東研究

【中東地図】



第3回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教：

その3：東方キリスト教

2023年3月23日



写真 エルサレムの聖墳墓教会 1864年撮影

ローマ帝国のコンスタンティノス大帝は335年、「真の十字架」が発見された場所、すなわち十字架の跡とイエスの墓の上に教会を建設した。聖墳墓教会は、何度も火災や地震で損傷し、614年にはササン朝ペルシア帝国、1009年にはファーティマ朝によって破壊され、その都度再建された。教会の敷地や建物は、多数のキリスト教宗派の管理権が交錯しており、1289年以来、教会堂の鍵は特定のイスラーム教徒家族が保管している。オスマン帝国時代には、宗派間の抗争を防止するため「現状維持」方針が確立したが、それでも各宗派の後ろ盾となった欧州列強の対立を押さえることはできなかった

1 キリスト教はどこから？

- キリスト教について一般的な知識のある人でも、「キリスト教世界の中心はローマのカトリック教会、宗教改革の時代に分かれたのがプロテスタント教会で、ロシアやギリシアの正教会も含め、キリスト教はヨーロッパの宗教」と思い込んでいるかも知れません
- イエスが活動したパレスティナや、教義・制度形成の場となった東ローマ帝国は、中東に位置します。これには、「イスラームの拡大で、キリスト教は消滅した」という別の誤解があるでしょう。現代の中東には、キリスト教徒は存在すると指摘すれば、「これらキリスト教徒は外国人か、外国の宣教による改宗者ではないか」との答えが返ってきます
- キリスト教生誕から現代まで存続している、中東のキリスト教について学びましょう



写真 コンスタンティノープル（イスタンブル）の旧ハギア・ソフィア大聖堂

コンスタンティノス大帝は330年、ローマからコンスタンティノープルに遷都した。現在の大聖堂は、ユスティニアノス1世により532年、再建された建物である。1453年、オスマン帝国のメフメト2世は、東ローマ帝国を滅ぼすと、コンスタンティノープルの大聖堂をモスクに転用した。1935年、トルコ共和国のムスタファ・ケマル大統領は、政教分離政策に沿い、「アヤ・ソフィア」モスクを博物館にするよう命じた。さらに2020年7月、エルドアン政権により、ムスタファ・ケマル時代の決定は無効とされ、アヤ・ソフィアは宗教施設に復帰した

2 キリスト教の迫害時代

- イエスは「ユダヤのベツレヘム」で生まれ、東方の三博士が「ユダヤ人の王」として生まれたイエスを拝みに来ました
- イエスは当時のユダヤ教指導層から排斥され、イエスの教えはユダヤ教を超克します
- ユダヤ教指導層は、ローマの官憲にイエスを告発し、磔刑に処してしまいます
- イエスは、受難と復活の奇蹟によって神格化されました。イエスの直弟子など「使徒」の活動により、ローマ帝国の非ユダヤ教徒にも急速に信仰が広まります
- キリスト教は、ローマ帝国の多神教と相容れない上、民衆に信者を増やして社会を不安定化させると認識され、約300年にわたり、厳しく弾圧されました
- 迫害時代のキリスト教は、秘密結社の形態を採りました。ローマ帝国の各都市で、使徒の後継者となった宗教指導者に率いられました
- そのため、初期のキリスト教は多元的な性格を有し、教義も各都市ごとに発展しました
- 各都市のキリスト教指導者は、「主教」と呼ばれるようになり、相互に指導者の地位を承認し、連絡を取り合っていました



写真 エジプト・シナイ山の聖カテリナ修道院

聖カテリナ修道院は565年、東ローマ帝国のユスティニアノス1世により創建された。修道院は、「燃える柴」（出エジプト記）の場所に建てられた。その地において、神はモーセに、イスラエルの民をエジプトから導き出すよう命じたとされる。聖カテリナ修道院は、現在まで存続する最古の修道院である。この修道院は正教会に属し、同時に教会組織上の自治を認められている。修道院の中には、修道士と共に、ユスティニアノス1世に従った兵士の子孫と伝えられる人々が居住している。後者は、7世紀末までにイスラームに改宗したが、修道院の警備を怠ることはなかった

3 キリスト教ローマ帝国

- 西暦4世紀、キリスト教にとって、大きな環境の変化が生じます。ミラノ勅令（313年）によるキリスト教の公認と、国教化（380年）を経て、キリスト教ローマ帝国が出現しました。コンスタンティノス大帝は、異教の中心であるローマを棄てて帝国の重心を東方に移し、324年、新首都コンスタンティノープルを建設、330年遷都しました
- 地中海を囲む広大な領土を支配したローマ帝国は、ギリシア語を用いヘレニズム文化を共通遺産とする東方と、ラテン文化に依拠する西方との複合世界でした。395年以降、ローマ帝国は東西に分割統治されることが常態となりました
- 西ローマ帝国は480年、ゲルマン民族により滅ぼされてしまいます
- そこで、1453年まで続いた東ローマ帝国（ビザンティン帝国）が、唯一の「キリスト教ローマ帝国」として、キリスト教を保護する役割を担いました
- キリスト教の教義・制度は、全主教が出席する公会議が決定するとされ、325年から787年までに東ローマ皇帝が召集した、7回の公会議による決定が正統と承認されました



写真 イラン・ウールミーエのマルト・マルヤム教会

ローマ帝国でキリスト教が迫害されていた時代、キリスト教徒の一部はペルシア帝国に避難した。また、431年のエフェソス公会議でコンスタンティノープル主教ネストリオスが失脚し、彼の教説が異端とされると、ネストリオスの支持者はペルシア帝国に落ちのびた。ペルシア帝国がイスラーム帝国によって滅ぼされた後も、「ネストリオス派」と呼ばれた信徒共同体は拡大し、インド・中国に及ぶ布教活動を行った。14世紀以降教勢は衰えたが、一部は「アッシリア教会」の名称で存続している。「マルト・マルヤム教会」はアッシリア教会に属し、ベツレヘムの聖誕教会と共に、現存最古の教会堂の一つである

4 正統教義の形成と宗派の発生

- 東ローマ皇帝は、あくまで俗人として教会組織の外にありましたが、帝国の精神的統一および政治的安定を維持するため、キリスト教の教義統一に強い関心を抱きました
- しかし、迫害時代のキリスト教は多元的に発展したため、公会議は激論の場となりました。7回の公会議を通じて教義の統一が実現した反面、異端とされた人々は独自の教会を形成して、宗派が発生しました
- 西方で4世紀に大勢力を有したアリウス派は、第一コンスタンティノープル公会議で打撃を受けました。キリストの人性と神性の区別を強調したネストリオスは、エフェソス公会議で失脚しました。次いで人性と神性の区別を否定した人々は、後に「単性論派」と呼ばれ、コプト教会、シリア教会、アルメニア教会を形成して、正教会から離脱しました
- 制度面においては、451年のカルケドン公会議において、ローマ、コンスタンティノープル、アレキサンドリア、アンティオキア、エルサレムの主教には「教皇」・「総主教」など特別の称号が認められました。これを五頭体制といいます



写真 エジプト・ソーハーグのアフマル修道院

「コプト」は、ギリシア語「アイギュプトス」（エジプト）が語源とされ、エジプト民衆を指した。5世紀、彼らが正教会と単性論派教会に分裂したとき、コプトは双方の教会に属していた。しかし、エジプトでは単性論派が多数を占め、イスラーム帝国による征服の後、正教会信徒はさらに減少した。このような経緯から、「コプト教会」は、もっぱらエジプトの単性論派教会を意味している。アフマル修道院は、上エジプトにあるコプト教会の修道院である。その創建は4世紀に遡るとされ、付属の教会堂は華麗に彩られている

5 イスラームの出現とキリスト教

- 610年頃、預言者ムハンマドにアッラーの言葉が啓示されて始まったイスラームは、先行する一神教であるユダヤ教、キリスト教を包摂する構造を持っています
- モーセやイエスなど、新旧約聖書の預言者はイスラームにおいても預言者と認められていました。ただしムハンマドは「預言者の封印」として、完全な啓示を受け取った預言者であり、アラビア語はその媒介言語として、それぞれ特別に扱われました
- イスラーム帝国に征服された異教徒の扱いは、一神教を奉ずる「啓典の民」か、多神教徒かで区別されました。多神教徒はイスラームに改宗させられ、キリスト教徒のような「啓典の民」の場合、貢納など一定の条件で旧来の信仰の保持を許されました
- 7世紀、シリアとエジプトはイスラーム帝国に征服されました。両地域のキリスト教徒は、イスラーム帝国の支配を受け容れ、キリスト教の信仰を認められました
- シリアとエジプトのキリスト教徒は、シリア教会・コプト教会として正教会から分離したため、東ローマ帝国の時代には抑圧されていました。イスラーム帝国の征服後は、むしろ他のキリスト教宗派と平等な扱いを受けることになりました



写真 エルサレムのアルメニア教会・聖ヤコブ大聖堂

4世紀、アルメニア王国はキリスト教を公式に受容した。アルメニア教会は、451年のカルケドン公会議で決定された正統教義から距離を置き、554年、正教会から分離した。11世紀末、キプロス島の対岸にあたるキリキア地方にアルメニア人の一部が移住し、キリキア公国を建てた。アルメニア教会は、アルメニアとキリキアの民族教会となり、エルサレムとコンスタンティノープルにも総主教座を置いた。エルサレムには、旧市街面積の14%を占めるアルメニア人街区がある。聖ヤコブ大聖堂は、アルメニア人街区が成立した4世紀に遡るとされるが、現在の教会堂は12世紀の建築である

6 東西教会の不和

- 東ローマ帝国の下で、7回の公会議と五頭体制によって正統教会が成立しました。しかし、9世紀以降、ローマ教皇と他の4人の総主教との関係が悪化していきます
- もともと、ローマ帝国の東西は、ヘレニズム文化とラテン文化の伝統に分かれていた上、南方からアラブ、北方からスラヴ民族が進出して、東西間の連絡が困難になりました
- ローマ教皇は、新興のフランク王国と結んで、東ローマ帝国とは疎遠になっていきます
- こうした文化的・政治的背景により、ローマ教皇は、他の総主教と教義・典礼の差異を巡って対立を始め、11世紀には溝が顕在化します。さらに十字軍は、コンスタンティノープルを略奪するなど、東方世界のキリスト教徒に反ローマ感情を植え付けました
- さらに1622年、ローマ教皇は「布教聖省」を設置、東方のキリスト教徒をカトリックに改宗しようとしてきました。多くの場合、東方諸教会の内紛に乗じてその一派をローマ教皇に服属させ、庇護を与えました。東方の典礼を保持してローマ教皇に従う「帰一教会」の樹立は、正教会など東方のキリスト教会から激しい反撥を受けました

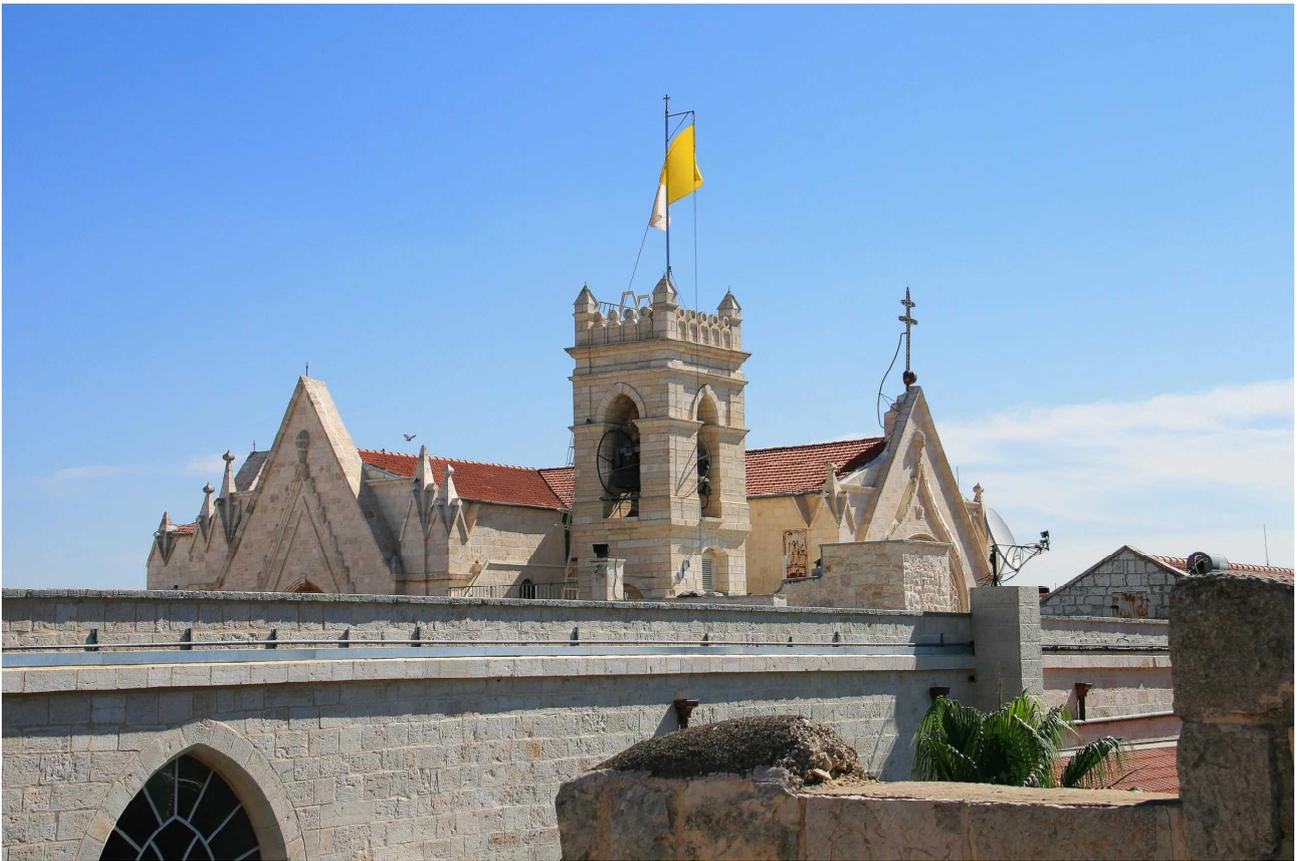


写真 エルサレムのローマ・カトリック「共同大聖堂」

相互に正統性を承認するキリスト教宗派は、それぞれの地理的管轄に従うよう教会法で定められている。ところが1054年より、ローマ教会と正教会との間の溝が深まった。1099年、十字軍がエルサレムを占領すると、ローマ教会はエルサレムに直轄の司教座を置いた。この司教座は13世紀末、十字軍の撤退と共に消滅した。19世紀には、欧州列強のオスマン帝国への介入が恒常化し、キリスト教諸宗派は聖地での勢力拡大を競った。1847年、ローマ・カトリック教会はエルサレムの司教座を復活した。カトリック教会は、聖墳墓教会の権利を主張しており、エルサレムの司教座大聖堂は、聖墳墓教会との「共同大聖堂」と位置づけられる

7 近現代の東方キリスト教

- オスマン帝国時代、キリスト教徒は信仰の保持と一定の自治が承認され、比較的安定した地位を得ました。18世紀、旧東ローマ帝国臣民の末裔は、繁栄の時代を迎えました
- しかし19世紀に入り、民族主義に目覚めたギリシア系の正教会信徒は、オスマン帝国からの独立を果たしました。欧州列強は、オスマン帝国内のキリスト教各宗派に対する保護権を主張し 少数宗派を勢力拡大の手段としました
- 少数宗派保護を名目とした列強の介入に対抗し、オスマン帝国はイスラーム教徒と少数宗派の平等を含む近代化改革に着手しました。近代化改革に対するイスラーム教徒の不満を背景として、外国に頼ろうとするキリスト教徒への加害事件も発生しました
- オスマン帝国滅亡後、中東に多数の国家が成立しました。キリスト教徒は、世俗主義からイスラーム回帰まで、各国のさまざまな政治環境に置かれ、適応を迫られています
- 今日、キリスト教徒は、宗派の違いを超えて、イスラーム教徒など隣人との連帯を目指す姿勢を選択するようになりました。政府の要職に就いている人も少なくありません